伊那市の買い物支援状況と移動支援

2022.1.18

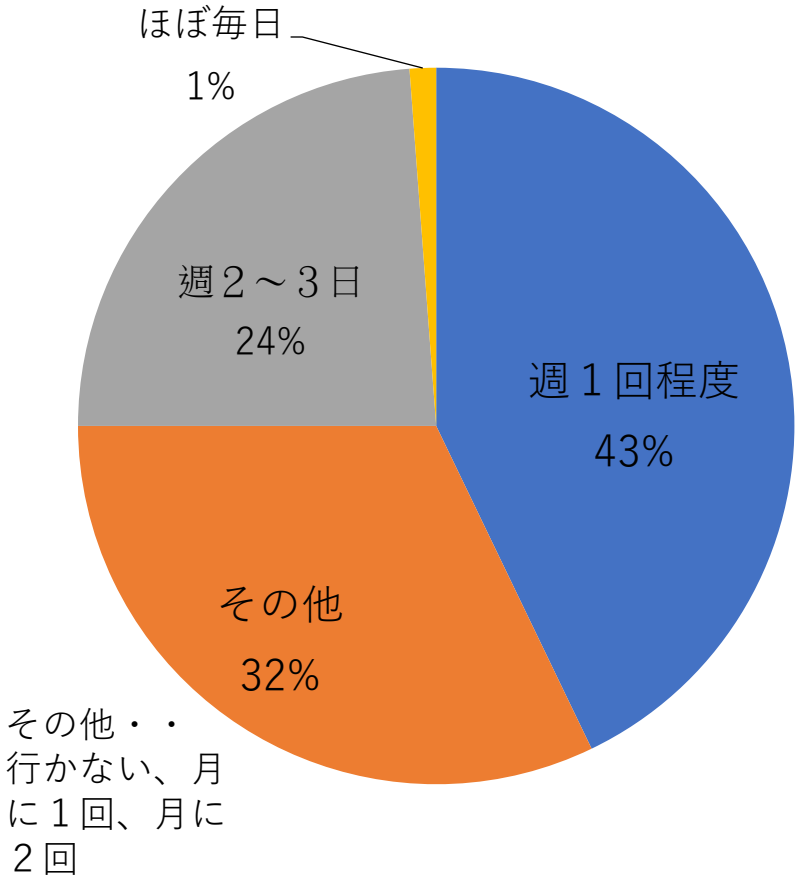
買い物・移動支援地域づくりネットワーク会議　基調報告

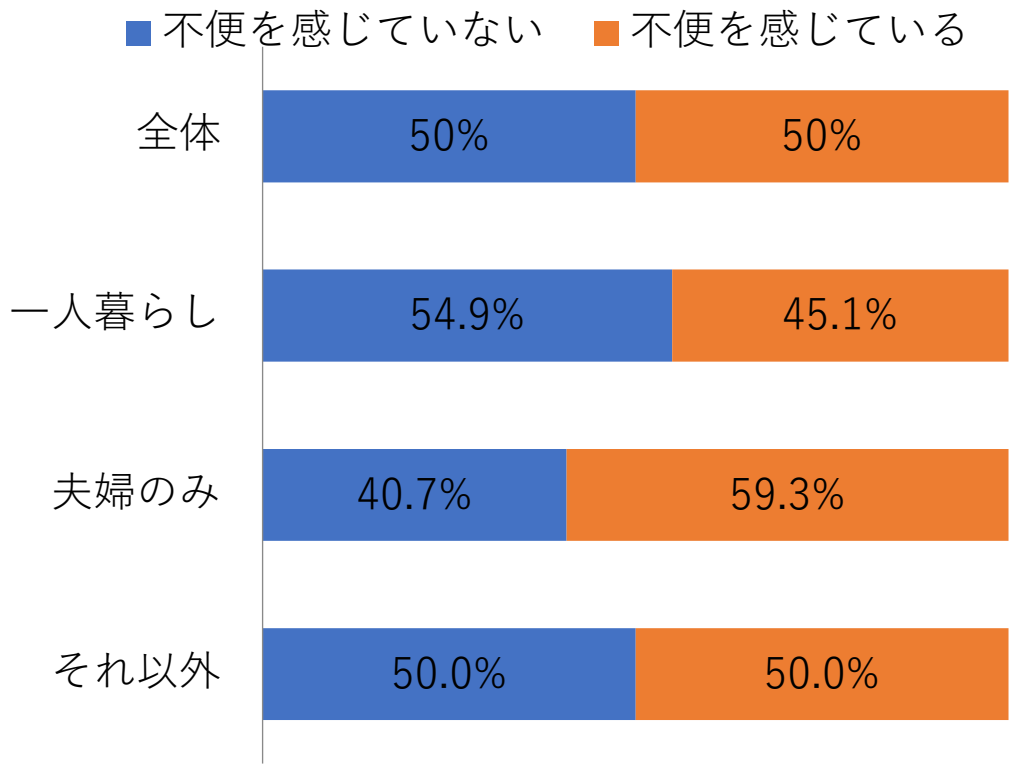
伊那市社会福祉協議会　地域福祉係

H27(2015)年度　訪問調査結果

①買い物の頻度

調査世帯数（８４世帯）の７５％が週に１回以下

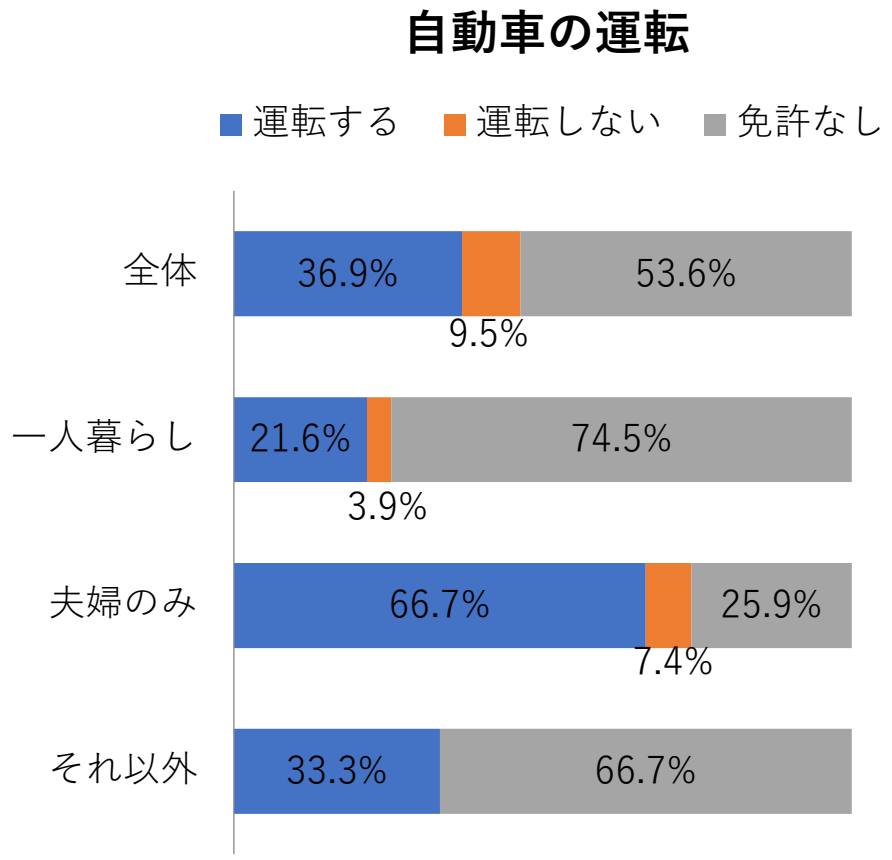


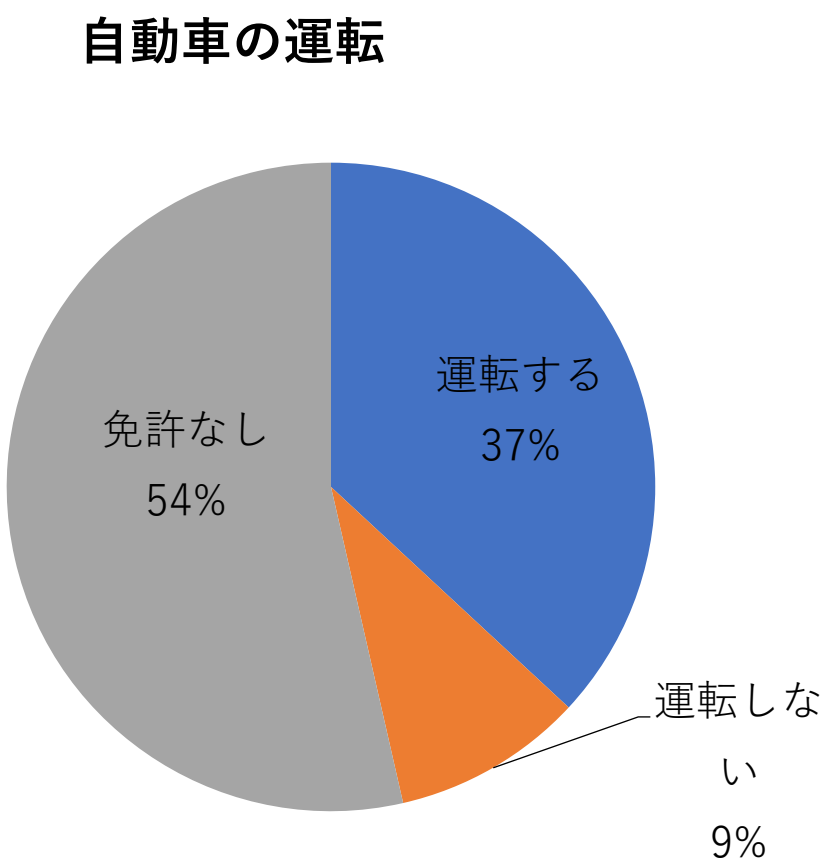


H27(2015)年度　訪問調査結果

②自動車の運転

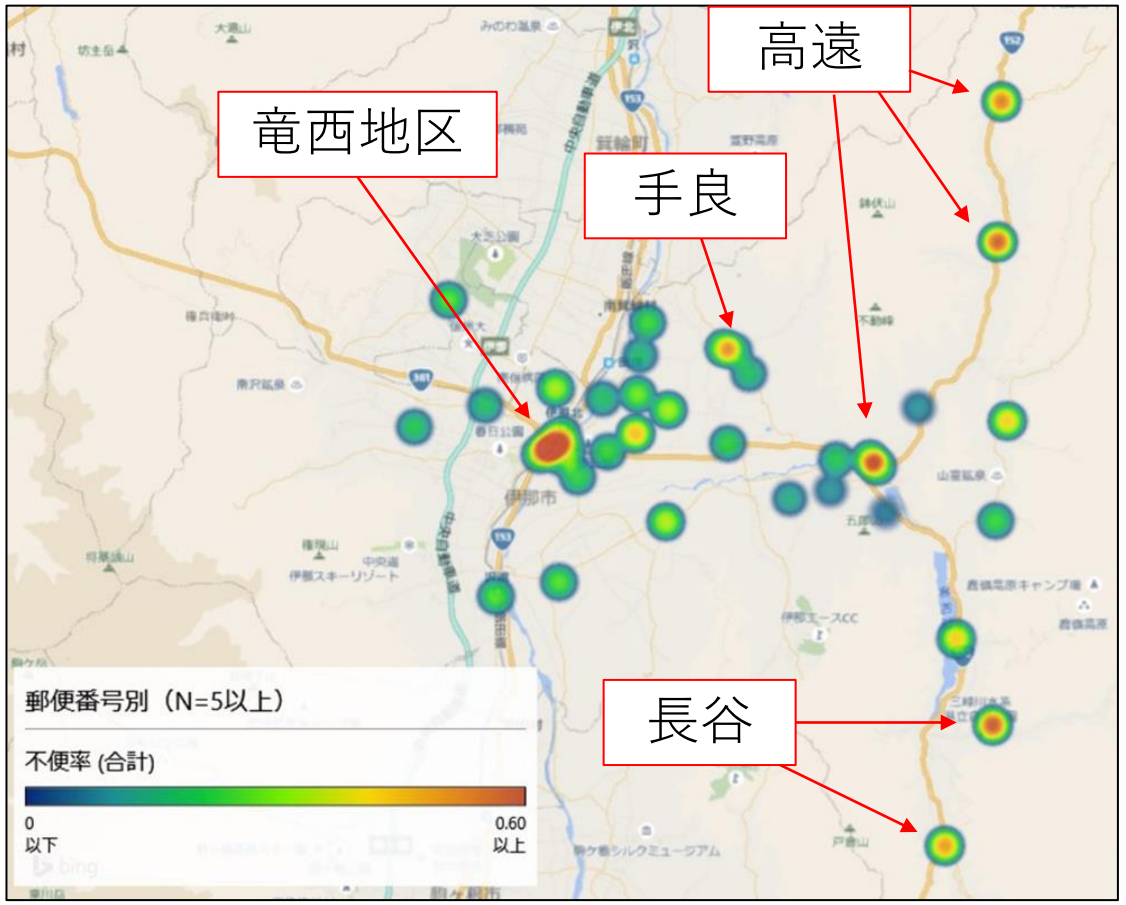
調査世帯数（84世帯）の約６割が自分で運転ができない環境にある。





平成28(2016)年度の取り組み
「食料品の買い物に関するアンケート調査」

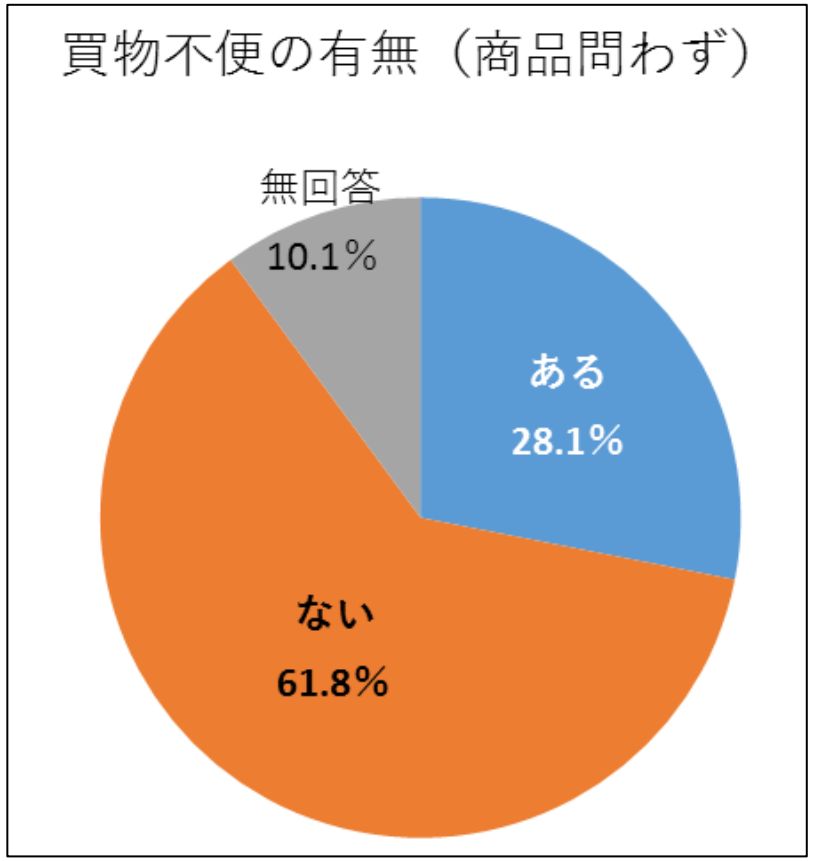
- 調査時期 ： 平成28年10月末～11月25日
- 調査方法 ： 郵送で調査票を配布･回収
- 調査対象 ： 高齢者（７５歳以上）が世帯主に
  なっている世帯（施設入所者、外国人を除く）
- 抽出方法 ： 無作為抽出
  （人口割から地区ごとの調査世帯数を抽出）
- 調査母数 ： 2,200通配布
  1,269通回収（57.7%）
- 実施主体： 伊那市、伊那市社会福祉協議会
- 調査分析： 公益財団法人 流通経済研究所（東京都）



平成２８(2016)年度の取り組み　「食料品の買い物に関するアンケート調査」

買物に不便を感じている人の割合

地域別では、回答者の中で、長谷、高遠町、富県、竜西（荒井・西町）が買い物に不便を感じている人の割合が大きかった



※調査結果は伊那市社協のＨＰからご覧いただけます。

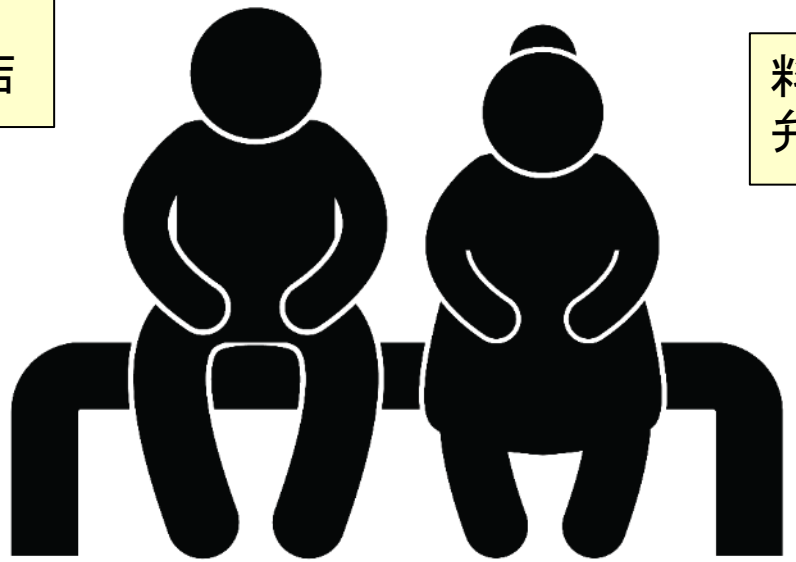
地域名	回答者数	買物不便者数	不便率
竜北地区	130	35	26.9%
竜西地区	136	47	34.6%
竜東地区	144	32	22.2%
北部地区	82	19	23.2%
富県	60	21	35.0%
美篶	126	28	22.2%
手良	48	12	25.0%
東春近	103	27	26.2%
西箕輪	83	22	26.5%
西春近	117	31	26.5%
高遠町	170	56	32.9%
長谷	45	20	44.4%
総計	1269	357	28.1%

H28(2016)年度　伊那市の高齢者の買い物の状況

歳を取っても週に1～2回以上は買い物に行く

半数以上の高齢者は買い物に車でいく。将来、車が乗れなくなることに対して、漠然とした不安を抱えている

主な買い物場所はスーパーマーケットや大型店



料理は手作りが基本で、惣菜・弁当やレトルトなども良く使う

買い物の場所まで遠いことに不便を感じている

近隣に店が出来ることを求めているが、求めるサービスは地域によって大きく異なる

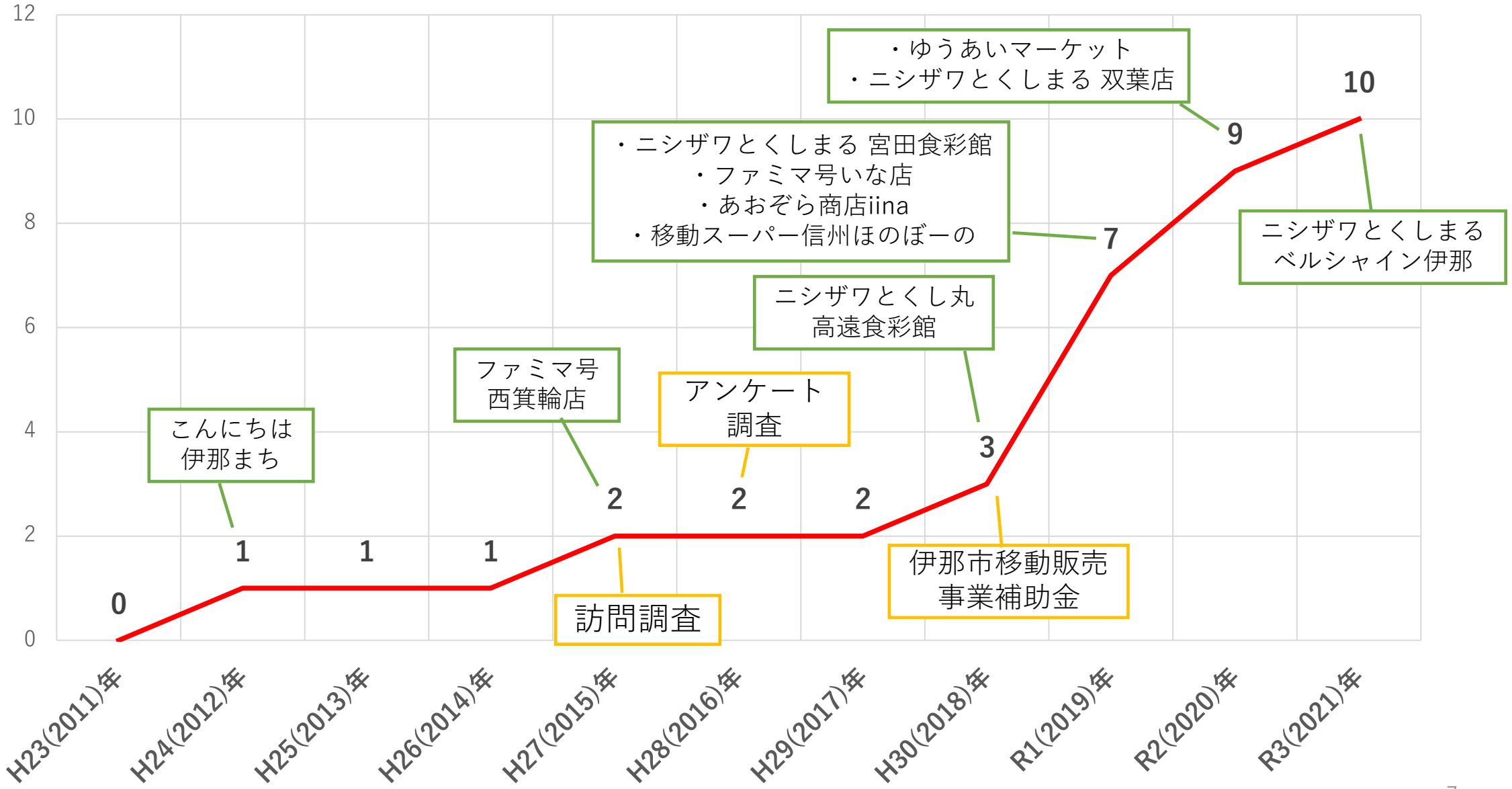
買い物は、商品を目で見て選べることが重要

買い物と一緒に、病院・薬局や金融機関に行きたいと思っている

食品では、生鮮食品（鮮魚、精肉、青果）の買い物に特に不便を感じている。また、価格よりも鮮度を重視する傾向

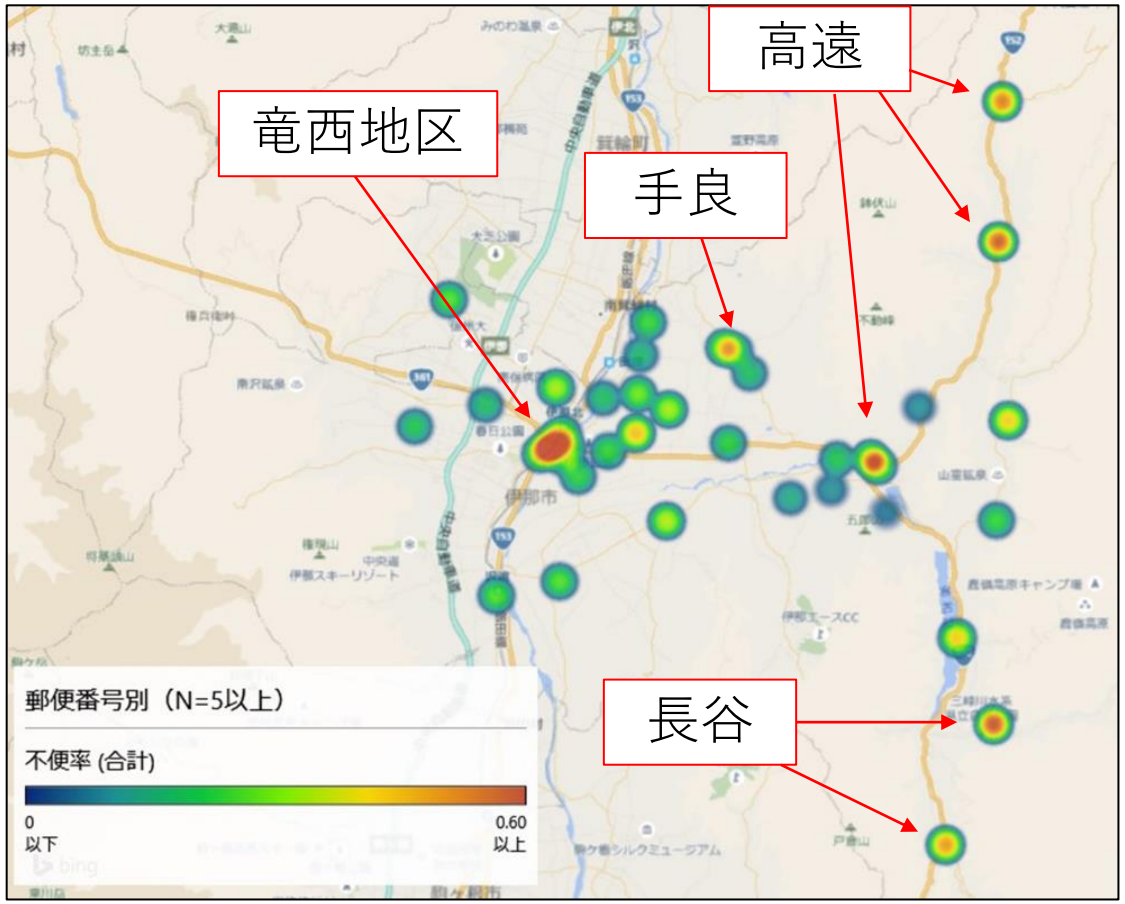
店が遠いことが買い物を不便にしている

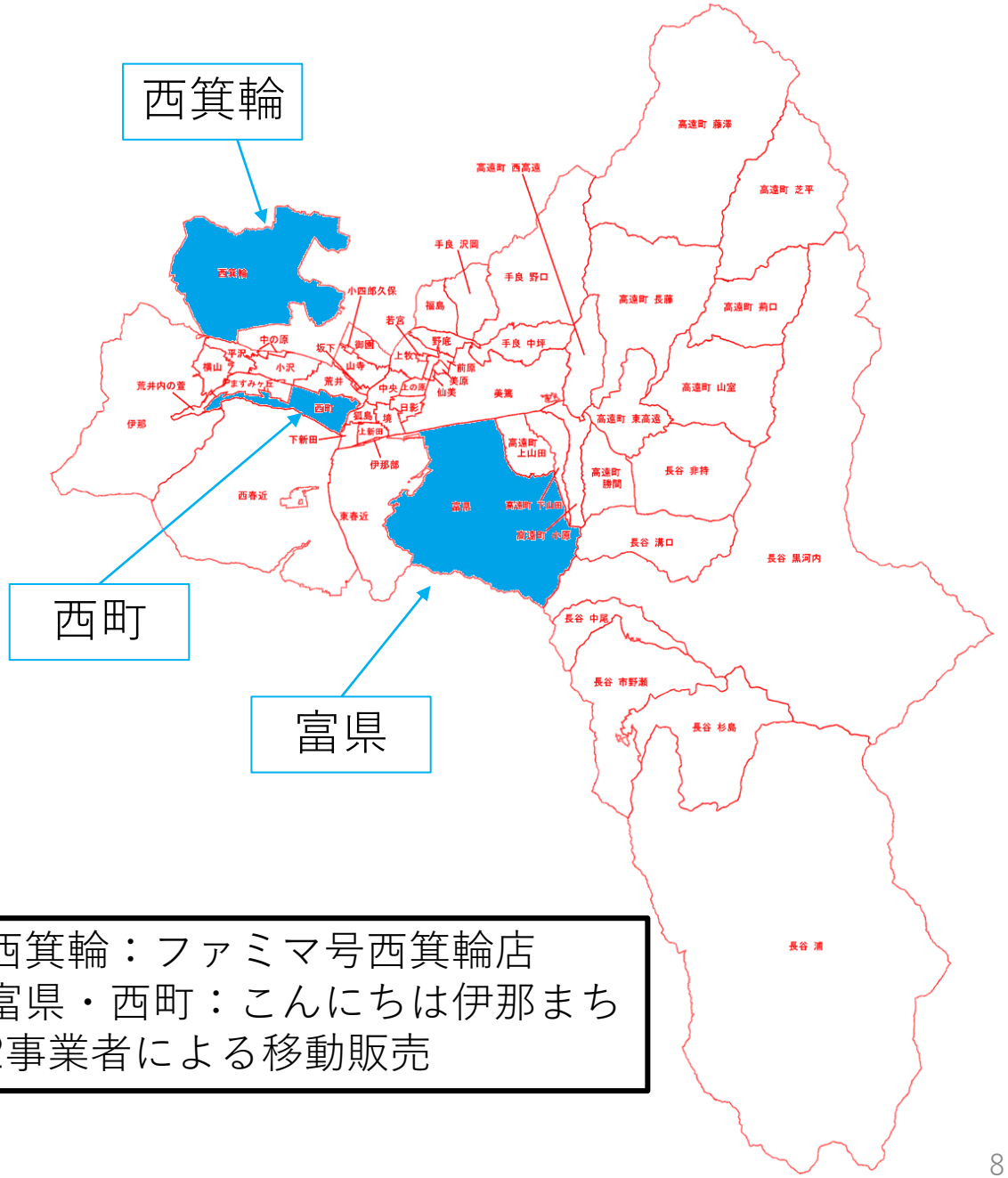
移動販売事業者数の推移



H28(2016)年移動販売エリア

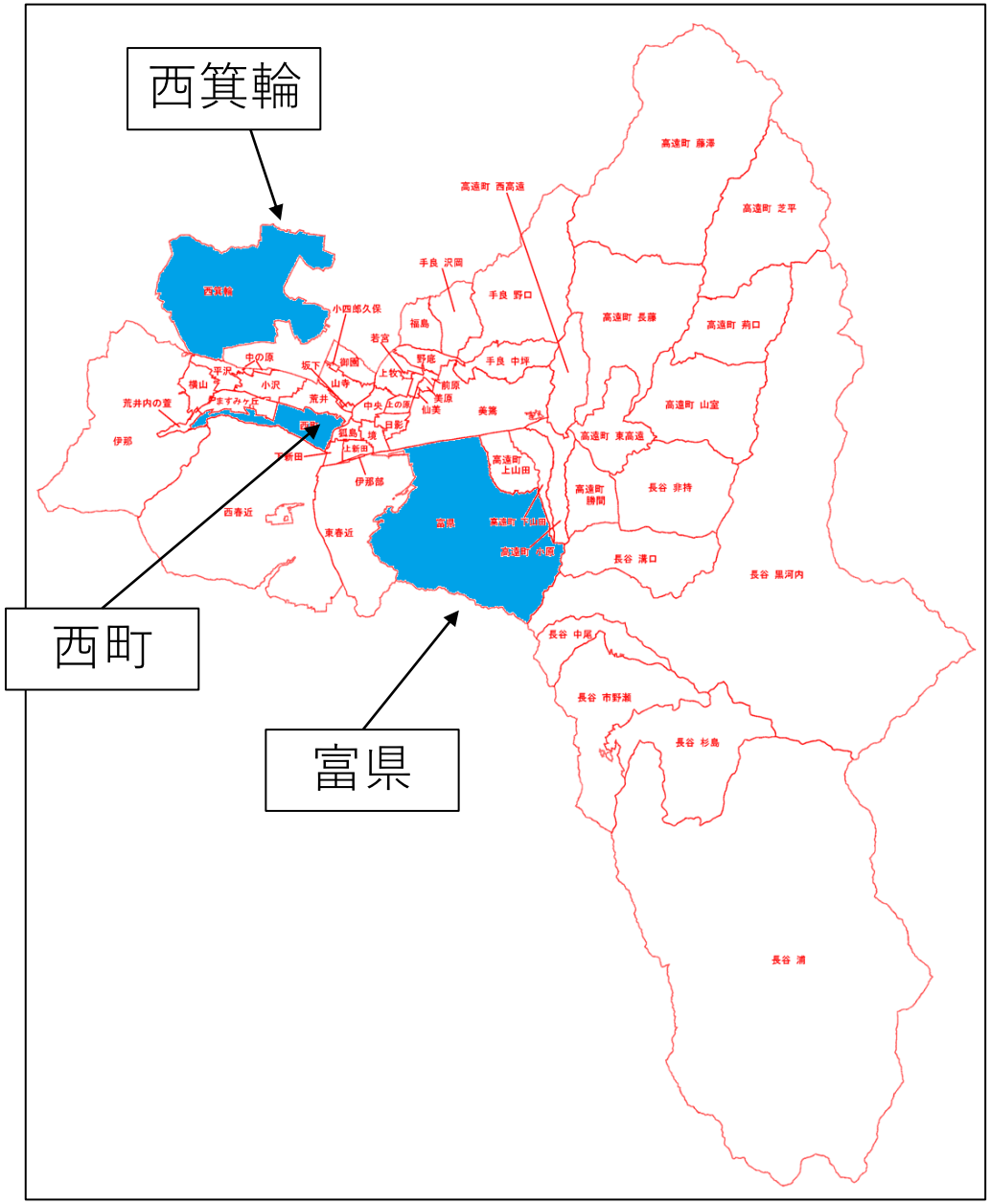
H28年アンケート調査
買い物不便割合 プロット





西箕輪：ファミマ号西箕輪店
富県・西町：こんにちは伊那まち
2事業者による移動販売

H28(2016)年移動販売エリア



5年後

事業者数０

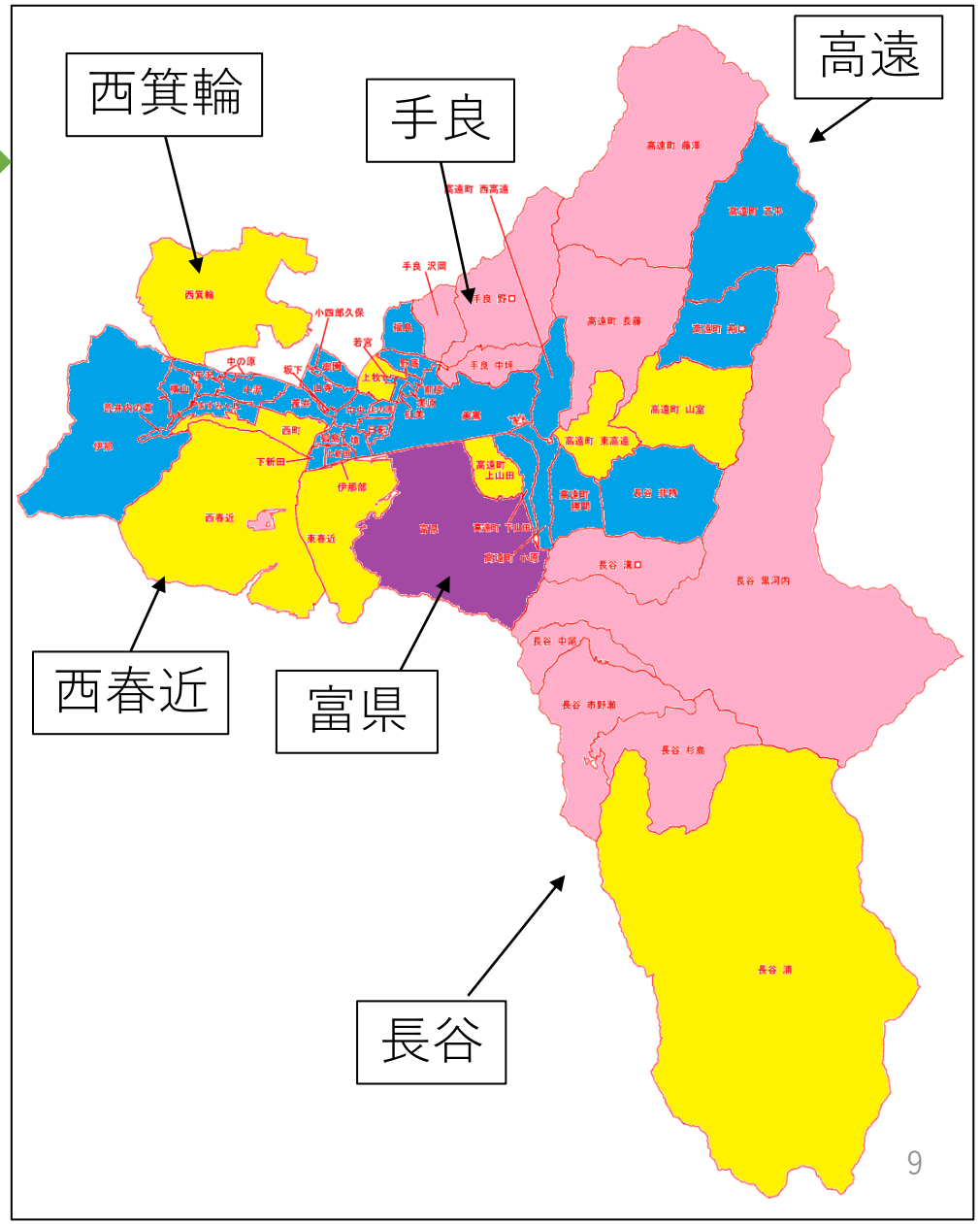
事業者数１

事業者数２

事業者数３

事業者数４

R3(2021)年移動販売エリア

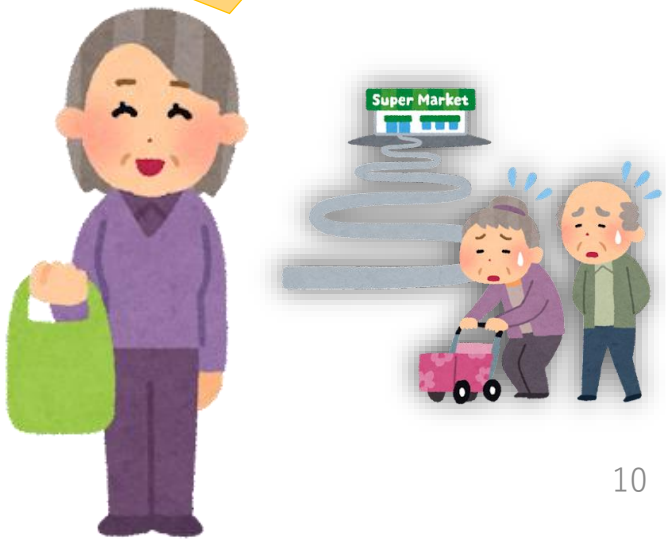


移動販売を利用している方の声

家の近くで自分で見て選んで買い物ができるのは嬉しい。

買い物を切っ掛けにお店の人やご近所の人と顔を会わせておしゃべりするのが楽しみ。

自分も助かっているが、これから買い物に困る人は増えていくと思う。これからの地域のためにも各買い物支援を利用しながらお店の人にも続けてもらいたい。



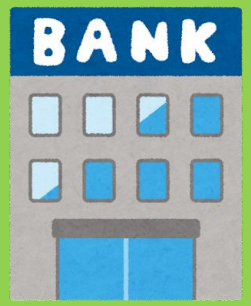
伊那市社協 今後の取り組みについて①

買い物支援

買い物支援を含めた移動支援

交流の場
イベント
集まり 等

買い物支援



など

買い物支援を含めた移動支援

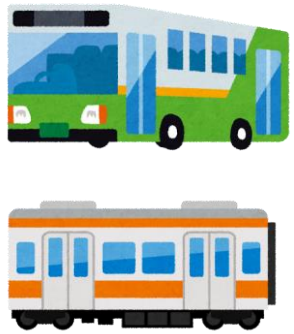
生活の質(QOL)を維持するために必要な移動

伊那市社協 今後の取り組みについて②

• 公共交通・福祉有償運送

・路線バス　・タクシー　・電車
・ぐるっとタクシー(AI乗合)
・福祉有償運送

事業者が運転手



• 助け合いの送迎(送迎ボランティア)

・ご近所の助け合い送迎
・地域社協の送迎ボランティア
・おのりな号　・訪問型D

住民が運転手

①有償運送や公共交通、助け合いの送迎などの移動手段を選択し組み合わせることで移動がしやすく住みよい地域を目指す
②移動支援を切っ掛けとした地域づくりを推進する